T2K実験は、2016年夏までに1.51×1021POTに相当するデータを収集し、それぞれ32事象(4事象)の電子ニュートリノ(反電子ニュートリノ)事象候補を観測し、CP対称性が保存すること(δCP=0,180°)を90%CLで棄却する結果を得た。今後は、T2K-phase2計画として、ビームパワーを1.3MWまで増強するなどして2×1022POTのデータを収集し、3σ以上の感度でCP対称性の破れの観測を目指していく。